

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2004

1/1

No.858 毎月1冊発行

ロケ隊、歓迎します。

歴史と文化が美しく調和したまちを
撮影にお使いください。

～西さがみ連邦共和国フィルムコミッション
まもなく設立一周年～



小田原の未来を語る

新しい年の始まりです。2004年は小田原にとって、どのような年になるのでしょうか。
今年の抱負、まちづくりの展望を小田原を代表する二人に語っていただきました。

明けましておめでとうございいます。

新しい年を迎え、市民の皆さんの幸せを願うとともに、今年もまた、小田原のために全力投球していこうと、気持ち新たにしています。

小田原の未来の姿に責任をもつ

社会環境は依然として混沌としており、まさに変革期の真っ只中にあります。進む少子・高齢化、迫りくる人口減少時代、社会保障システムの改革など、大きな課題が数多くあります。こうした中、この混沌の時代をいかに乗り越えるかだけでなく、その先までも見据えた、しっかりとした展望を描き、未来に責任をもちたいと考えています。いまは10年、30年、50年先の未来に小



小澤 良明

【小田原市長】

自立した地域社会の形成に向け

地方分権が本格化する中、時代を一步先取りした施策を、さまざまな分野で積極的に展開していきたいですね。そのために、行政の透明性、市職員の

田原があるべき姿を実現するために「混沌の畑を耕している」状況なのです。種をまき、水をやり、一部の芽が出始めたところ。少しずつ本市も、変化への予兆、発展への予兆が見え始めてきました。

政策形成能力をさらに高めるとともに、市民参加をより一層進め、市民の皆さんと一緒に、自立した新しい地域社会をつくっていききたいと思っています。折りしも、昨年からはじめた、平成17年度にスタートする市総合計画「ビジョン21おだわら」の後期基本計画の策定作業では、市民のかたがたの意見を反映させるために設置した、「市民提言会議」のメンバーが熱い議論を展開しているところです。

うるおいとやすらぎのあるまちづくり

財政状況の厳しい中、小田原駅東西自由連絡通路や小田原アリーナをはじめ、数々のハード事業に力を注いできました。洗練された都市空間は、だれもが当たり前のように望んでいます。その一方で、うるおいとやすらぎのある癒しの空間が求められています。一大自然の中の山小屋でも、ハイビジョンテレビを楽しむというような、これまでの施設整備は、今後のソフト事業への基盤づくりだと考えています。ここ数年、人々の価値観も大きく変化しました。画一の時代から多様性の時代となり、一人一人がよりよく生きていくために、市として何をすべきか。皆さんの多種多様な声を把握しながら、行政として優先順位を決定し、期待に応えていきたいですね。鳥の目で世界や未来、理想を見て、蝶の目で市民の皆さんが何を望んでいるのかを的確に把握する。山種する課題を解決していくため、今年も全力疾走です。

地方の時代の幕開けに

新年明けましておめでとうございます。
市民の皆さんにおかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

地方分権が進む中 地域の特徴を 生かしたまちづくりを

昨今のわが国は、長引く景気停滞の中、好転の兆しが見え始めたとはいえ、状況は依然として厳しく、財政再建、雇用対策、外交問題など、さまざまな重大な課題に直面しています。
このように国全体が激動する中でこそ、国家の基礎である地方自治体は、

時流に惑わされることなく、大局的な観点から、物事の本質を見極めた判断を下さなければならず、私も市政に携わる者として、その責任の重さを強く感じています。

現在、国の政策により、市町村合併をはじめ、地方分権が推進されていますが、私たちがまちも、この地域の特徴を生かした、独自のまちづくりを進めていくことが求められています。



大野 眞一
〔小田原市議会議員〕

広域的な連携で 「足柄平野のまちづくり」

私たちが住む足柄平野は、酒匂川を中心とした豊かな自然の恵み、温暖な気候、そして千年を超える悠久の歴史など、かけがえのない財産があり、そして、この地域の各市町には、それぞれの努力により、素晴らしい施設が数多く設置されています。

これからは、環境、消防、生活、文化など、行政が関与するさまざまな分野において、広域的な連携を持った施策を考え、進めることが必要です。そのため、私は「足柄平野のまちづくり」という、県西二市八町による広域的な観点からのまちづくりも必要であると考えています。

だれもが愛し、だれからも 愛されるまちとなるように

今後は、人と人とのつながりを持つことを大切にし、「交流」というキーワードのもと、住民、行政、議会が一体となって、お互いの理解を深める事業を充実させ、みんなでこの地域の将来の姿を議論し、考えていくべきだと思います。

現在、市議会としても、市町村合併問題調査特別委員会、小田原駅周辺問題調査特別委員会などを設置し、さまざまな角度から広域的なまちづくりについて協議していますが、今後、私たちのふるさとを、だれもが愛し、だれからも愛される郷土愛に満ち溢れたまちとなるよう、精一杯努力していきたいと思います。

小田原駅に駅ビル

JR東日本が平成17年開業へ



駅ビルイメージ図

◎広域交流拠点整備課 ☎331653

小田原駅東西自由連絡通路アーケードの整備に伴い、旧駅舎が解体された敷地に駅ビルが建設されることが、JR東日本から発表されました。

駅ビルは、昨年12月20日に開通したアーケード東口階段部を包み込む形で建設されるもので、ファッション、食料品・雑貨、飲食、サービスなどを組み合わせたテナントミックスによる商業施設が計画されています。

敷地2,900㎡、延床13,400㎡、店舗6,400㎡の規模で、鉄骨造による地上5階。今年春から着工、来年夏ごろにオープンし、平塚ステーションビル(株)(愛称ラスカ)が経営する予定です。

大型店の撤退が続いていた小田原駅の東口では、久しぶりの大規模店の出店計画です。にぎわいが戻りつつある中心市街地の活性化への追い風として期待されます。

湯河原町(湯河原梅林(墓山公園))



真鶴町(三ツ石[日の出])



箱根市(富士山と芦ノ湖と鳥居)



小田原市(鰐門と小田原城天守閣)



小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町では、12月8日に「西さがみ連邦共和国観光交流推進協議会」を設立しました。

今、「観光振興」を核に「交流人口を拡大すること」でまちづくりを進めよう、という方向性が注目されています。また、これまでの観光名所を中心とした「点」的な観光から、まちなみや暮らし振、住民のかたとの交流など「面的なひろがり」を持つ観光交流への転換が求められています。

西さがみ連邦共和国で「観光交流空間づくり」

◎観光課 ☎331521

このような中、西さがみ連邦共和国でも、交通事業者、観光関係事業者、NPOなどの民間団体、地元関係者、そして行政といたった幅広い地域関係者が参加し、地域経済の活性化や生活環境の向上、そして、さまざまな観光ニーズに応えるための地域特性を考えた観光戦略などの観光交流空間づくりに取り組んでいくことになりました。

「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを目指します。



12月8日に行われた「西さがみ連邦共和国観光交流推進協議会」のようす

川久保和男さん(曾我別所)



伝統芸能(曾我別所寿獅子舞)〔市指定無形民俗文化財〕の復活と後継者の育成に取り組みられるとともに、県西地域の民俗芸能の相互交流・発展に努められました。

鈴木由利子さん(江之浦)



「チエルノブイリ子ども基金江の浦」を設立し、被災児支援を通して平和意識を高める活動を通して、本市の国際化の推進に努められました。

平成15年度

小田原市民功労賞は

このかたがたに！

山本組雄さん(東町)



「小田原・箱根木製品フェア」を開催するなど、小田原の木製品の情報発信と木製品業界の振興・改革に積極的に取り組み、地場産業の振興に尽くされました。

市民功労賞は、学術・文化・福祉・産業など市民生活のさまざまな分野において功績のあったかたに贈られるもので、贈呈式は1月12日に市民会館で行われます。

市民交流課 ☎33-1703

※なお、この賞は市民のかたからの寄付金をもとに設置した「小田原市はう賞基金」により運営しています。

小田原市消費者の会



長年、地域の消費者活動に尽力されるとともに、環境などの新しい問題にも取り組み、市民の意識啓発に努められました。

おだわら手作り絵本の会



幼児から大人まで楽しめる「手作り絵本」の技術の研さんと、その普及に努められ、市民文化の振興に尽くされました。

小田原 彩時記

小田原の未来に
提言！

～市民提言フォーラム開催～

小田原市総合計画「ビジョン21」おだわら一の後期基本計画に市民の皆さんの意見を反映させるために設置した「市民提言員会議」のメンバーが、11月30日(日)にフォーラムを開きました。六つに分かれた各部会がそれぞれの活動の成果を発表。その後は質疑応答が行われ、中央公民館ホールにつめかれた250人の参加者とともに、小田原の未来について活発な意見交換をしました。



安心・安全

町民に安心があります

市民提言員会議 フォーラム

学校を豊かにすれば、地域が豊かに

「学校評議員のススメ」

「開かれた学校」を実現するという、教育改革の一つとして市が設置した学校評議員制度。その全校設置も2年目に入りました。

今、学校評議員制度はどのように教育の中に生かされているのでしょうか。

◎学校教育課 331684

学校評議員制度とは

学校評議員制度は、開かれた学校を推進するために地域のかたから学校に対する意見や提言などを受けるためのもので、平成14年に全校に設置されました。評議員は、自治会・PTA・子ども会・育成会のかたなどをお願いしています。その運営は学校によって違いますが、年に数回の学校評議員会のほか、日常的にもいろいろな提言が学校に寄せられています。

その内容はさまざま。運動会や学習発表会やバザーなども話題になります。



子どもたちの問題行動も採り上げられ、校内でのいじめや不登校、非行や事故・事件などについても報告されます。不審者の校内侵入に對しての防犯体制、教職員の綱紀粛正についても意見が出されています。

それでは、学校評議員会で出された意見が、学校現場で取り入れられた事例をご紹介します。

学校が何となく暗い。明るくしよう！

（下府中小学校）

下府中小学校のペンキ塗り大作戦は、「汚れた壁を明るくきれいに塗り替え



「きれいな学校で勉強させてあげたい」とペンキ塗りにはげむPTAの皆さん。「こんなにきれいに塗れるなら自分の家の壁もやろうかしら」との声も。

地域全体で学校を考える

て、気持ちをリフレッシュしようとの評議員フィスク・ブレットさんの発案から始まりました。教職員を含む50人もの皆さんが協力して12月6日の土曜日に行った塗り替えは、子どもも参加してとても楽しい作業となりました。

それぞれの学校の評議員のかたは、いろいろな意見をお持ちです。それらを集約する場として、評議員会があります。そこで出された意見には、事例のように学校の判断ですぐに取り入れられるものから、よく話し合いをしながら時間をかけて考えていくものなどさまざまです。学校の情報をオープンにして、地域全体で学校について考えていくことが、その地域自体を豊かなものにしていくことにつながります。学校も、今まで以上に外部からの意見を柔軟に取り入れる姿勢を整えつつあります。地域の学校評議員さんの活躍に注目してください。

政策総合研究所通信

●徳連営事務局 ☎ 33 13 09

11月1日から実験が始まった「地域助け合いシステム・徳」。
助け合いは、人と人のつながり。互いに見知らぬ間柄でも「助け合いの
気持ち」をきっかけに知り合い、喜びと感謝の輪が広がっています。

「徳」循環中！

「なんかいいなあ...」

「まちづくりのイベントの
手伝いに参加しました。連
絡メールでどんな方たちか
な？」と思い巡らしていま
しなにかするっていいと思
いました。」(飯泉在住 女性)

「輪が広がります」

「徳」のような媒体がある
ことで、イベントの手伝い



を得てとても助かった。縁のなかつた
人と知り合え、自分たちの活動を知っ
てもらえる機会ともなりうれしけれ
た。」(城山・まちづくり団体)

レンジの掃除、草刈り、子
守り、お弁当作り、パソコ
ンに関する質問や相談、竹
トンボ作り、祝儀袋の代筆
など、日常のちよつとした
ものから、イベントの手伝
いなど、徳のサービスの交
換・循環が活発化してきて
います。

「こんな思いで参加しました」



お母さんの
力になりたい

北田 礼子さん
【南鴨宮在住】

3人の子どもの母として、本当に
しんどくて人の手を借りたと思っ
たことがあります。自分の経験を
生かして、そういったお母さんの力
になりたい。「徳」をうまく使えば頼
む方も頼まれる方も気兼ねなく使え
るのではないのでしょうか。

登録してすぐ、一緒の部屋で目
の届くところでの子守りを頼みまし
た。安心して主婦仲間との貴重な
時間を持つことができました。



大勢の一步が
大切

杉本 幸恵さん
【酒匂在住】

今年92歳で他界した義母。い
ろいろなことから受けた恩恵を私
が「できること」で、元気をいただけた
らと思いました。

高齢社会の問題は、家族の心身
の負担など介護保険だけでカバー
できるものではありません。大勢の
かたがたが一步踏み出すことが大
切で、心の温もりを少しでも提供し、
大きな輪になればよいと思います。



もらった「徳」
使います

河千田 健郎さん
【市内在活动】

友人が出演するイベントの手伝い
をしたら、何と「徳」がもらえ続けた。
自分たちが毎月第1・3日曜日
に行っている、みかん畑の再生活
動でも使うことにした。心地よい汗
をかいて「徳」をもらいましょう。

●政策総合研究所のホームページ

どんな「できること」「してほしいこと」が
寄せられているのかを見ることができま
す！是非お問い合わせください！これなら私
でも！と思われた方、気軽に登録してく
ださい。

URL <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/prio>
メール prio@city.odawara.kanagawa.jp

登録者受付中！

「徳」の輪を広げる

情報交換 & 交流会

「勇気を出して頼んでみてよかつた」
「頼まれると思っていなかったたので電話
を受けた時はとてもうれしかった」

「徳」に登録した人は、登録者間で共
有する「してほしいこと」でできること
リストにある電話やEメールなどの連絡
方法により依頼します。また、メー



お母さんと、みかん山再生活動に参加。竹の著作にも挑戦。

「徳」ってどんなもの？

人と人の善意が循環することで、住
みよいまちになるのではないかと、とい
う考えから始めた実験です。

「できること」「してほしいこと」を登
録し、参加者間で共有するリストを
もとに依頼します。何かしてもらった
ら100徳、500徳、1000徳の
紙券を相手に渡すことで、お礼の気持
ちを表します。やりとりの過程は、記
録簿に記録しておきます。

リングリストや登録者の情報誌「まる徳
通信」ではイベントでのお手伝い募集な
ど、活発な情報交換がされています。
しかし、顔の見えない人に電話やE
メールで連絡するとに不安を抱く人
がいて、事実です。
そこで、交流会(12月11日㈩・マロニ
エ)を開催するなど、登録者同士の顔
の見える関係づくりも進めています。
「徳」を介して知り合うと、ずつと前
から知っていたような気持ちで、新たな
話題・世界・仲間が広がっていきます。

シリーズ
チャレンジ!

中心市街地

パート
6

小田原地下街に「街かどギャラリー」が誕生。
あなたの作品で街にうるおいを

市民交流課 331706



小田原地下街の一角に、
展示スペース「街かどギャラリー」がオープンしました。



市民の文化活動の身近で気軽な「発表の場」「鑑賞の場」「交流の場」として、これまで市内の金融機関のご協力をいただいて実施してきた「街かどギャラリー」は、金融機関の壁面を彩る絵画や写真などの作品が、訪れた皆さんから、「心が和んだ」「力作に感心した」と好評です。

「もっと大勢の人が、自由に見ることができ場所にも設置して」という声に、小田原地下街のベルジュ側壁面の広報ケースが、常設のギャラリーとして生まれ変わりました。
縦130cm、横150cmのガラスケース3つで、これまでのとおり、絵画や写真などの平面的な作品はもちろん、少し厚みのある工芸品なども展示できます。

あなたも「小さな作品展」を開いてみませんか。

出品者募集



小田原地下街、金融機関とも出品者を募集しています。

対象 絵画、写真、工芸作品、文芸作品
など壁面展示できる作品を制作しているグループまたは個人
展示にかかる費用 無料
展示期間 2週間程度

これまでの出品例 油絵、水彩画、水墨画、写真、押し花、七宝焼、書道、ろうけつ染など
申込、随時、電話予約の上、展示内容のわかるものをお持ちください。

小田原 彩時記

秋の交流会で
情緒を満喫



小田原市板橋の松永記念館や周辺の寺社を会場にした「板橋秋の交流会」が、11月22、23日に開かれ、22日の前夜祭では、地元板橋の皆さんによる手作り竹灯ろうが松永記念館庭園とその周辺を飾り、その情緒あふれる静かな灯火に思わずため息が漏れる場面も。翌日は小田原・城下町大使によるトークをはじめ、音楽や飲食などさまざまなプログラムで、大盛況。前夜祭も含め訪れた約2,000人の皆さんは、板橋の魅力に触れるとともに、それぞれの秋を満喫しました。



「次世代育成支援対策推進法」に基づくアンケート調査に

ご協力を

●児童福祉課 ☎331454



昨年7月に「次世代育成支援対策推進法」が制定されました。

この法律は、急速な少子化の進行や、家庭・地域を取り巻く環境が変化する中、次代を担う子どもが健康に生まれ、育成される社会をつくるためのものです。この法律により、市町村は、平成16年度中に次世代育成支援の実施に関する計画(市町村行動計画)を策定することになります。

した。

今回、市では、この計画策定に先立って、市民の皆さんのニーズを把握するためにアンケート調査を行います。

アンケート用紙は、小学生以下のお子さんがいるご家庭から無作為に抽出した約6,000世帯を対象に、1月中旬に送付する予定です。

お手元にアンケート用紙が届いたご家庭は、ご協力をお願いいたします。

小田原城最古の障子堀を発見！

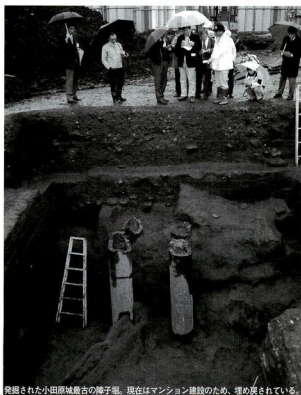
●文化財保護課 ☎331717

で発見されました。

国道1号沿いの映画館「オリオン座」跡地から、小田原城で最も古く最大規模となる障子堀が発見されました。障子堀とは、堀底に障壁を設けた堀のこととで、この障壁によって行動を妨げられた敵は、弓や槍で効果的に討ち取られたことでしょう。北条氏はこのような堀を好んで用いました。

今回発見された堀は江戸時代の三の丸堀よりも外側で、更に現在の国道1号(江戸時代以降の東海道)よりも南側

また、出土した5,000点に及ぶ遺物から、これまでに小田原で見つかっていた障子堀よりも50年以上も前に造られた堀であることがわかりました。その時代は名高い北条早雲(伊勢宗瑞)や小田原の基礎を築いた2代目氏綱のころにあたり、これまでの小田原城の歴史に見直しを迫るきわめて貴重な発見でした。



発掘された小田原城最古の障子堀。現在はマンション建設のため、埋め戻されている。

「心豊かに共生する高齢社会」

vol.6

「高齢社会」という言葉から何を想像しますか。なんとなく不安を感じるかたもいるかもしれません。ここでは、高齢社会を安心して心豊かに暮らすために、私たちに何ができるのかを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

● 高齢介護課 ☎ 331841

高齢者の知恵と経験で地域貢献

下府中地区社会福祉協議会と矢作小学校の世代間交流

高齢化と少子化が進むなか、家族の形も様変わりし、3世代の親族が同居する世帯の割合は減り続けています。核家族化はさらに独居化へと進み、世帯規模は小さくなる一方です。

個人のプライバシーに配慮して互いに同居を避ける家族もあれば、仕事の都合などでやむなく高齢の親と別居する人もいます。

地域では、物騒な事件が身近なところ

るで起こ

るようにな

り、高齢者が

孤独に亡くなるケースが

増えています。家族同士の距

離が離れ、隣近所の付き合いが希薄に

なり、地域社会の連帯が弱まっている

と感じるかたも多いのではないでしょ

うか。

「何か大切なものが失われつつある」。

下府中地区社会福祉協議会長の酒匂守

さんは、社会福祉活動を通じて、生活

環境と暮らし方が変わってきているこ

とを感じていました。連帯の弱い地域

社会は、高齢者には特に暮らしにくい

ものになってしまします。自ら高齢期

を迎えた酒匂さんは、高齢者だからこ

そでできる地域貢献があるはずだと考え

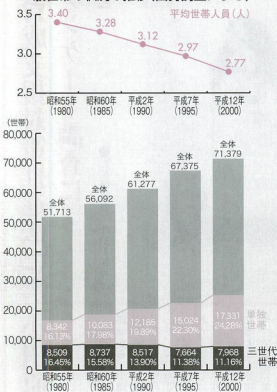
ました。高齢者が地域社会での自らの

役割を考え行動することが、地域に活

力をもたらすと同時に、自身の生きが

いにもつながり、さらに高齢者の知恵

一般世帯の状況の推移(国勢調査による)





▲ゲームクラブ 遊びにも礼儀作法が大切と知る



▲工作クラブ 切り出し刀を初めて使う子どもも多い



▲手芸・料理クラブ ベっ甲斐の甘さはやさしく懐かしい

と経験が尊重される、心豊かな共生社会をつくる。

そこで着目したのは、世代間の交流。これからの地域を担う子どもたちとのふれあいでした。酒匂さんは社会福祉協議会のメンバーと共に、地元の矢作小学校に、高齢者と子どもたちとの交流の計画を持ち込みました。「教えてやるという姿勢では疎まれるだけ」と、子どもたちを教育する指導者としてではなく、まずはお互いが学び合う交流会として計画を立てました。

かねてから「地域の人々の教育力を学校にも取り入れたい」と考えていた矢作小学校長の岩越豊雄さんは、この計画に同調。1年間の授業のなかで20時間ほど設けているクラブ活動の時間に、地域の高齢者を招き活動に参加し

てもらう事業が動き出したのです。地域では参加する高齢者を、学校では参加する児童を募集し、昨年10月27日、「お年寄りとクラブ活動を通した交流会」が開かれました。17人ほどの高齢者が、三つのクラブ活動に分かれて「混ぜて」もらい、ゲーム、工作、調理と、それぞれの活動が展開されました。ふだん高齢者と接する機会のない子どもも少なくありません。初めは少しきこちなく始まった交流会も、1時間余りの活動が終わるころには、なごやかな温かい雰囲気になりました。

「老中や家老のように、『老』という字には、人生の経験と知恵を持つ者という意味がある。また、子どもを慈しむ者という意味もある」と岩越さんは言います。「子どもたちは高齢者の姿から多くを学び取ったと思うし、高齢者

のかたがたも子どもにも活力をもらったのではないかと」と交流会を締めくくりました。

酒匂さんも、初めての試みに手こたえを感じたようす。「今後ともプログラムを充実させて、他の小学校にも活動を広げていきたいし、自治会や老人クラブなどの地域団体の協力もいただきながら、交流を深めたい」と話しました。

急速に姿を変えていく地域社会。大家族と地域内連携を前提としていた社会のありさまが、サービスマンや価値観の多様化に伴って変わっていくことは止めようがありません。新しい形の地域社会を温かきと楽しきで満たすためには、どうすればよいのでしょうか。地域の高齢者自身が経験と知恵を発揮した交流会では、世代を超えた新しい絆が生まれつつあることが感じられました。



酒匂 守さん（下府中地区社会福祉協議会長）

高齢者だからこでできる
地域貢献があるはず

「私たち社会福祉協議会のメンバーが学校を訪ねたとき、学校職員やPTAのかたが非常に協力的で、本当にありがたかったですね。お互いに刺激になったと思いますよ。私たち高齢者も子どもたちから何かを学びとっていると思うし、子どもたちには、命の大切さやお年寄りを大事にすること、礼儀、あいさつなどを学びとってもらえたらと思っています。」と酒匂さん。

酒匂さんたちの活動は、核家族化が進み、高齢者とのかわりが少ない今、世代を超えた同士が互いに触れ合える有意義な場を地域にもたらしめているよう

世代を超えた交流で 子どもが学べ、子どもにも学べ

前ページで紹介した下府中地区社会福祉協議会長の酒匂守さんに、市民の皆さんからの公募による広報リポーターがお話を伺いました。



広報リポーター
野田 明子さん

です。その成果は着実に得られていて、高齢者の知恵と経験が生かされているのだと感じました。

また平成12年には、やはり子どもたちとの交流を目的として小学校で開いたパソコン教室で、子どもたちが先生の使い方を、学校とは逆の立場でパソコンの使い方を高齢者に指導するという試みを取り入れました。教えたり、教えられたりの逆の立場に立つということ、子どもたちが生き生きし、自立心も育めたのでは、と酒匂さんも手ごたえを感じたようでした。参加したメンバーたちも、教室の後で反省会を開き、皆さんの感想や意見などを交換し合いました。このときの取り組みが、今の酒匂さんの活動の原点となつて生き続けているのです。

今は地域社会が都市化の波に追いついていく、地域で助け合つて生きていくという連帯感を持つことが難しくなつてきているのが現実です。しかし、このように悩みを持ちながらも模索し、一つの方向性を見出してこうという動きが、世の中に必要な時期に来ているのだ、と実感しました。

小田原 彩時記

荻窪保育園が 自治体消防記念式 典で表彰



東京で開かれた自治体消防55周年記念式典で「優良幼児年消防クラブ」として荻窪保育園の幼年消防クラブが表彰されました。日ごろから消防出初式や火災予防運動などに参加している活動が評価されたもので、園児たちも小田原の防災に一役買ってくれています。

園児たちは、12月3日水におそろいのほつび姿で市長に受賞を報告し、自分たちが描いた消防車の絵をプレゼントしました。

出土品が語る

小田原の歴史

市内の遺跡から発掘される数多くの出土品。これらをよく調べると、当時の文化や生活のようすが分かってきます。これら小田原の歴史を見てきた証人ともいえる出土品の中から、特に重要なものをシリーズで紹介します。このコーナーで紹介した出土品は、その月に郷土文化館で特別に展示します。

文化財保護課 ☎33-1717

平安時代の末、武家の中には公家以上の権力を持つものが現れました。その代表が源氏と平氏です。平氏の棟梁平清盛は、武家として初めて太政大臣にまで登りつめ、市内石橋山で兵を挙げた源氏の棟梁源頼朝は、鎌倉に幕府を開きました。武士の世の始まりです。

そのころ市内には、中村氏や曾我氏などの武士団がいました。彼らの活躍は『吾妻鏡』などの書物にも記され、中村氏の居館は小竹に、曾我氏の居館は曾我にその伝承地があります。その他にも、市内には歴史上に名を残していない多くの武士が存在していました。市内小船や久野、下堀では武士たちの痕跡を示す遺物が見つかっています。このような人々の存在は、発掘調査の成果によって初めて明らかになったものです。今回は、そのような名もない武士たちに関する出土品を紹介します。



中世集石墓のある久野丘陵地（遠景）

参考文献

- 小田原市『小田原市史通史編 原始・古代・中世』
- 小田原市教育委員会『小田原の文化財』
- 小田原市教育委員会『平成12年度試掘調査』小田原市文化財調査報告第107集

集石墓

13世紀前半から中ごろ（鎌倉時代）に多く造られたお墓で、主に人の頭ぐらゐの石を用いて区画し、内部にも石を敷き詰めて蔵骨器を埋納したものだ。

吾妻鏡

鎌倉幕府が編纂した歴史書で、日記の形態でその日の出来事を記しているもの。治承4年(1180)から文永3年(1266)までのことが記されている。



三筋壺

高さ24.4cm、最大幅18.7cm、12世紀後半

愛知県常滑市などで焼かれた壺で、胴体に3本の筋が入っているものが主であるため、三筋壺と呼ばれています。お経を納めて埋納したり、火葬した人骨を納めた蔵骨器（骨壺）として用いられた特殊な容器でした。このような特殊容器を用いることができるのは、武家以上の身分の人物と思われます。市内では、久野や下堀、早川から同様の壺が出土しています。写真は、下堀宮ノ脇遺跡で出土した常滑焼の三筋壺です。土師質の椀で蓋をされた状態で出土しましたが、中は空洞で何も入っていませんでした。



常滑焼

高さ64cm、最大幅70.2cm、13世紀中ごろ

これも同じく常滑焼です。常滑焼は平安時代の終わりのころから焼かれ、日本各地に流通しています。主に貯蔵用として用いられていたようですが、写真の壺は蔵骨器として用いられていました。

昭和26年(1951)に久野にある市指定史跡の中世集石墓から出土したもので、詳細な出土状況を示す資料はありませんが、多量の火葬骨が出土したとのこと。丁重に埋葬されていることから、やはり武家以上の身分の人物が埋葬されていたと思われます。

食と文化のイベントで 小田原のさかなの魅力を再認識！



11月29・30日の両日、小田原TMO（商工会議所）により、小田原のさかなをテーマにした「小田原三茶人が愛した『さかな・食匠のまち』」が開かれました。このイベントは、本市の歴史・生活文化に欠かすことのできない、「さかな」にこだわり、その良さを再認識することで小田原の魅力を高めよう行われたもの。

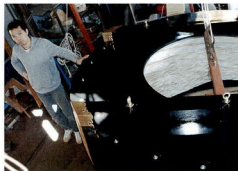
小田原地下街では、「さかな・食匠スタジアム」と題し、11月12日に行われたアジヤヒラメを使った創作料理コンテストの優秀作品が披露され、試食や販売が行われました。

また、第2会場のなりわい交流館も、いま話題の小田原おでんのほか、小田原近代三茶人益田鈍翁、松永耳庵、野崎幻庵の写真展やゆかりの講話、まち歩き会など、プログラムが盛りだくさん。小田原の新名物を味わうとともに、歴史・文化に触れ、皆さん大変満足でした。

そのほか、二つのメイン会場を結ぶエリア内には、サブ会場として、「食匠のまち・花茶席」が7か所設けられ、和菓子やパンなどを販売。二日間で、約7,500人のかたで賑わいました。小田原のさかなについて、新しい発見をされたかたも多かったことでしょう。



史上最大の小田原ちょうちん制作！



全面開通したばかりの小田原駅東西自由連絡通路アークロードに、巨大ちょうちんが飾られました。これはその制作規模の写真です。高さ4 m 50 cm、直径2 m 45 cmと、スケールも超特大。作業場で全体を引き伸ばすことができず、半分しか開きませんでした。制作した山崎勇さん・高史さん親子は「小田原ちょうちんは、箱根を越える人の魔よけとしても重宝されました。このちょうちんも、小田原駅を利用されるかたを守ってくれるようお願いを込めて作りました」と話してくれました。自由通路を利用するときは、ぜひ見てください。





歴史に残る映像作品を小田原から!

～西さがみ連邦共和国フィルムコミッション設立1周年～

西さがみ連邦共和国フィルムコミッションが2月1日で設立から1周年を迎えます。東京から交通の便が良いこと、バラエティに富んだ映像資源があることなどから、制作者からの撮影依頼も確実に増えてきました。●広報広聴室 ☎331261

フィルムコミッションの役割

フィルムコミッションの活動は、映像制作を支援し、映画文化の振興に寄与することです。国際機関(AFCI)に加盟しているだけでも世界31か国に約300のフィルムコミッションがあり、日本でも平成13年度に「全国フィルムコミッション連絡協議会」が発足し、各地にフィルムコミッションが設立されるようになりました。

具体的な業務は、映画やテレビドラマなどの撮影を誘致し、撮影(ロケ)場所や宿泊、飲食、機材のレンタルなど撮影に必要な情報を提供したり、スムーズな撮影が行われるように支援したりすることです。その多くは自治体や、観光協会、商工会議所などが中心になって運営をしており、小田原市でも、箱根町・真鶴町・湯河原町と協力して、昨年2月に「西さがみ連邦共和国フィルムコミッション」を設立しました。県内ではほかに、横浜・藤沢市などが同じ組織を運営しています。

ロケ地となることで、都市イメージの向上や宣伝効果に加え、ロケ隊が滞在することによる経済効果などが期待できます。

実際に昨年2月のフィルムコミッション設立から約1年間で、ロケ隊が市内で使ったお金は、食事、宿泊、機材レンタルなどだけで1千5百万円以上にもなります。また、番組制作費を支

払うことなく映像に小田原が紹介される宣伝効果や、撮影に使用された場所を訪れる観光客による消費など、その効果は計り知れないものがあります。

すばらしい作品はみんなの手で

なお、作品の制作には、イメージを膨らませる、優れたロケ地の提供が必要となります。小田原でも二波(昭和17年)、天国と地獄(昭和38年)など、歴史に残るすばらしい作品が過去にたくさん生まれています。

制作者が求めているロケ場所は、いわゆる観光地よりも、公共施設のほか、



市内小学校でのシーン



市通協の協力により米神港まで行った爆発シーン



自動車転落現場シーン

「クニミツの政」

放映媒体 テレビ(フジテレビ)
連続ドラマ
出演者 押尾学、伊東美咲、佐々木蔵之介、吉岡美穂、大杉漣ほか
撮影場所 間中病院、御幸の浜海岸、小田原アリーナ、小田原城、小田原漁港など市内各所

映画「昭和歌謡大全集」

放映媒体 劇場公開用映画
出演者 樋口可南子、岸本加世子、相川ふみえ、池内博之、松田龍平、安藤政信ほか
撮影場所 米神漁港、早川一夜城きらめきガーデン

映画「黄泉がえり」

放映媒体 劇場公開用映画
出演者 草野剛、竹内結子、柴咲コウほか
撮影場所 市内久野林道、早川のアパートほか

相風・洋風建築、ホテル、病院など人々の生活感がするものが多く、また小田原という設定ではなく使われる場合も多く見られます。したがって、撮影支援には皆さんや企業などの協力が必要になります。撮影には夜間などでも多少のご迷惑をおかけすることもあります。市としても、できるだけ皆さんにご迷惑をおかけすることのないよう制作者とも協議していきますので、ぜひフィルムコミッション事業に協力してください。

なお、フィルムコミッションでは、撮影場所として提供していただけの住居や施設、また実際に撮影に参加していただくエキストラのかたの登録なども行っています。詳しくはフィルムコミッションのホームページを、ご覧ください。
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/extra/extra-index.html>

【ここに注目!】

設立後市内で撮影したのは29作品。最近でも依頼はどんどん増えています。番組では、放送の終わりに字幕が流れる「エンドロール」に注目してください。小田原で撮影されたものには、「撮影協力 西さがみFC・小田原市」と文字が入ります。最後まで見てください。



突撃インタビュー！ フィルムコミッション1周年に寄せて

昨年2月の西さがみ連邦共和国フィルムコミッション設立イベントの時にゲストとしてバネルディスカッションに登場していただいた船越さんが「火災調査官・紅蓮次郎③」の撮影現場で私たちにメッセージをくれました。

心におみやげ、
見つけて小田原。

西さがみは
俺が守っている…!!

俳優

船越 英一郎さん

「このドラマは本当に多くのかたに支持をいただきました。今度の作品は第3作目。これからも自分のライフワークとして、紅蓮次郎とともに度々重ねていきたい。まちがいなく私の代表作です」と船越さん。火災調査官ならではのトリッキーな謎解きと、人間の素直さを楽しんでください、と加えた。

土曜ワイド劇場 火災調査官・紅蓮次郎③

火災現場の灰の中から真実を突き止める火災調査官。船越英一郎さん初主演となったこの作品は、その大部分を市内で撮影し、第1・2作とも高視聴率をマーク。さらにパワーアップした第3弾も期待大。



放映媒体 テレビ（全国テレビ朝日系列）
出演者 船越英一郎、河相我聞ほか
放送日時 2月から3月ころ（放送日未定）21:00～
撮影場所 消防本部、小田原アリーナ、小田原漁港、市役所、マロニエほか市内各所

私はこの地域の出身なので、愛すべき西さがみの良さを伝えるべく、日々頑張っています。実は今、私は小田原で火災調査官を、湯河原で警察官を演じているんですよ。最近ではこの地域を私が守っているという使命感すら感じています！（笑）これからも一緒にすばらしい作品を西さがみから発信していきますよ。

2月の設立イベントに参加してもう1年が経とうとしています。本当に早いものです。この地域が映像文化によって活性化することは、とても素晴らしいことだと思っています。フィルムコミッションにはぜひ頑張ってくださいたいですね。私の作品はサスペンス系が多いので、舞台としては殺人現場だったり火災現場だったり、必ずしもいいイメージとは言えないかもしれませんが、でも決してロケ地にとってマイナスだとは思いません。ドラマでは、だれもが持っている光と影の部分や、人間の持つ本来の温かさを確実に描いています。このような作品にロケ地として登場することは、本当に誇れることなのです。

続々登場！ 小田原ロケ作品！

あなたのまわりにドラマがあった…!?

えなりかずきの「一体さん」

放映媒体：テレビ（フジテレビ）ドラマ
出演者：えなりかずき、石黒賢、生瀬勝久ほか
放映日時：1月8日（木）19:00～
撮影場所：市内小学校

NHK大河ドラマ「新選組！」

放映媒体：テレビ（NHK総合）連続ドラマ
出演者：香取慎吾、佐藤浩市ほか
放映日時：2月1日（日）20:00～
（小田原収録分）
撮影場所：小田原城

恋愛小説

放映媒体：テレビ（wowa）ドラマ
出演者：玉木宏、小西真奈美ほか
放映日時：2月16日（月）21:00～
撮影場所：県立生命の星・地球博物館、酒匂海岸

修羅の道

放映媒体：劇場公開用映画
出演者：原田龍二、松方弘樹、渡辺裕之、小西博之、井上貴子、山下規介ほか
公開：未定
撮影場所：小田原城、小田原漁港、市役所ほか

世界の中心で、愛をさけぶ

放映媒体：劇場公開用映画（東宝）
出演者：大沢たかお、柴崎コウほか
公開：5月8日（土）から全国一斉（予定）
撮影場所：市内中学校